

研究課題の名称

がん登録情報を活用した石綿健康被害救済制度周知方法等の検討に係る調査

研究の目的及び意義

全国規模で肺がん患者を同定・サンプルして当該患者の肺がん診断時の CT 画像を検討することで、胸膜プラークを持つ肺がん患者(石綿による肺がん患者)がどの程度存在するのかを把握するものである。この結果は、救済方法の周知方法を検討する時の情報のひとつとして利用される。

石綿の暴露が悪性中皮腫の発症に関与していることは一般的に知られていることだが、肺がんのリスクが増加し、さらに喫煙者の場合はリスクが 52 倍にも上昇する。

石綿による肺がん患者として救済制度の対象になるにもかかわらず制度を利用していない患者が相当数存在すると考えられる。この調査は、このような患者の救済方法検討の情報を得る方法のひとつとして実施される。

対象者の選定方針

全国の医療機関の院内がん登録情報から無作為に肺がん患者を抽出。院内がん登録匿名化番号(という)を、研究参加施設が保有する対応票を使って対象患者を選定する。

研究予定期間 研究許可日 2018 年 9 月 21 日